

## 2018年度 障教部 白書 集計結果

☆白書アンケートへのご協力、ありがとうございました。集計の結果をお知らせします。

1、指導員・支援員等の先生の働き方を明確にしたいので教えてください。

(1) 指導員・支援員等の先生の勤務内容とそれぞれの人数について質問します。

勤務内容	人数	勤務内容	人数
①特別支援学級のための支援	24	⑤適応指導室・相談室と通常学級の支援	3
②通常学級のための支援	39	⑥特別支援学級・適応指導室・相談室・通常学級の支援	10
③適応指導室・相談室のための支援	12	⑦医療的ケアのための支援（看護師等）	4
④特別支援学級と通常学級の支援	59	⑧その他①～⑦にあてはまらない支援	4

※実際に回答を頂いた数です。（実際に配置されている人数ではありません。）

(2) 指導員・支援員等の先生の勤務実態について質問します。（同じ職場で働くなかまのことで。）※( )内はどれかに○をつけて下さい。

職名	勤務時間	給与	交通費の有無	休暇の有無
要教員免許・要看護師免許 学級支援員	7時間45分	1日 6470円	有	有
学級活動サポーター	5時間45分	1日 4555円	有	無
学級支援員 要教員免許	8:15 ～12:15	1時間 1097円	無	有
生活支援員	8:15 ～16:15	1ヶ月 133000円	無	有
学校教育活動支援員 要教員免許	8:20 ～15:05	1日 9000円	有	有
教育介護補助員 要看護師免許	8:20 ～15:05	1日 8000円	有	有
教育介護補助員	5時間45分	1日 7000円	有	有
特別支援教育指導員	8:25 ～16:55	1日 8000円	有	有
生活支援	8:30 ～16:00	1日 5200円	有	有
生活支援 要看護師免許	8:30 ～15:15	1日 6770円	有	有

職名 要教員免許・要看護師免許	勤務時間	給与	交通費の有無	休暇の有無
学習支援	8:30 ～15:15	1日 9300円	有	有
特別支援	8:30 ～15:00	1日 5200円	有	有
特別支援 要教員免許	9:15 ～16:00	1日 6000円	有	有
介護支援 要介護士免許	8:30 ～15:15	1日 7500円	有	有
特別支援 要教員免許	8:20 ～15:05	1日 6000円	有	有
適応指導	8:40 ～12:40	1時間 1000円	無	無
特別支援教育支援員 要教員免許	8:30 ～13:30	1日 4600円	有	有
(名称不明) 要教員免許	8:15 ～15:00	1ヶ月 140000円	無	無
(名称不明) 要教員免許	8:20 ～16:50	1ヶ月 216500円	有	有
(名称不明)	時間帯様々	1時間 920円	有	有
(名称不明)	9:00 ～15:45	1日 6000円	有	有
(名称不明)	8:30 ～16:00	1ヶ月 104000円	無	有
(名称不明)	8:20 ～16:50	1日 10000円	無	有
(名称不明)	8:20 ～15:05	1日 5800円	無	有
(名称不明)	8:20 ～16:50	1日 5800円	無	有
(名称不明)	8:25 ～15:05	1日 5800円	無	有
(名称不明)	8:20 ～13:25	1時間 800円	有	有
(名称不明)	8:30 ～15:15	1日 6000円	有	有
(名称不明)	8:35 ～14:35	1時間 830円	有	有
(名称不明) 要保育士免許	8:35 ～14:35	1時間 900円	有	有

(名称不明) 要教員免許	8:15 ~16:45	1ヶ月 163000円	有	有
(名称不明)	8:30 ~15:00	1ヶ月 約100000円	有	有
(名称不明)	8:30 ~15:00	1日 9000円	有	有

(3) 指導員・支援員等の先生に関わる問題点がありましたら、お書きください。

(例) 校外学習に参加できない、年休が取れない等

- ・泊付きの行事に参加できない。
- ・年休が4月からの半年ではとれない(10月から半年で10日間)。
- ・どうしても勤務時間オーバーで支援されている。
- ・支援員の勤務時間と授業時間が違うので困っている。
- ・支援員と児童・生徒について話し合ったり打ち合わせたりする時間がとれない。(複数)
- ・学期ごとの雇用であること。通年雇用にしてほしい。(複数)
- ・夏休みに保険証が切れること。
- ・支援する子どもが多いので、支援員1人に係る負担が大きい。
- ・担任との情報交換の時間が取れない。
- ・熊本市外の校外学習について行くことができないこと。(多数)
- ・学級支援員から教育活動サポーターに切り替えるときに、勤務の違いの説明が不十分
- ・長年連続して勤務していても、1年ごとの採用になり、毎年前半の6か月間は休暇が取れない。
- ・全員異動すると子どもの情報を引き継げないので、数人は残るよう考慮してほしい。
- ・支援を要する子どもについて見守っているが、同じ学校にいながら特別支援教育支援員と「いきいき益城っ子」の給与に差がある。(給与が低いのに)時間数も1日2時間多い。「いきいき益城っ子」の方たちとの仕事内容にもそれほど差がないように思われる。同等の給与でもいいのではないか。
- ・朝から早めに来て、ボランティア勤務のようなところがあった。
- ・旅費がかかる校外学習に参加できない。
- ・休憩時間が取れない。
- ・給料が安い。
- ・対応する生徒が多く、通常学級での支援がなかなかできないので、マンパワーを増やしてほしい。
- ・校外学習に参加できない
- ・人数が足りない
- ・8時15分には朝の歌が始まり、子どもたちが活動するのでそれより前に出勤する必要あるし、給食指導の片付けを終えてその後日報を詳しく毎日書かなければならないので勤務超過がかなりある。担任、教科担任との連携が取りにくい。プライバシーのこともあるので、言えないこともある。
- ・情報共有の難しさ。

- ・ 交通費が出るようになったが時給も下がり、200日の出勤も減ったので、手取りの給与はあまり変わらない。
- ・ 給料の安さ、交通費の支給のないこと
- ・ 暑さ（クーラー無し）
- ・ 勤務時間超過している。学校の雑務をやっている。
- ・ 校外学習時にも保険を適用して欲しい。
- ・ 勤務時間外の仕事の場合、そこで切ってしまう学校と時間調整してくれる学校がある。（学校判断）
- ・ 通勤手当が、10日以上勤務一律になっている。通勤距離に合わせて欲しい。夏休みなどは出ない。
- ・ 休みが取りにくい。
- ・ 年休が少ない。
- ・ 校外学習に行く際に、旅費が予算として計上されずに行けないことがある。
- ・ 市外での校外学習の場合、参加できないことになっている。
- ・ 休暇は取れるが、日数が少ない。
- ・ 夏休みに仕事がないので無休になる。
- ・ 夏休み入りの一週間、終わりの一週間に仕事が欲しい。
- ・ 用事があるときは休みを貰っているので助かっています。
- ・ 月10日以上出勤しないと1日100円の交通費が支給されない。
- ・ 学年の見学旅行に参加できない。
- ・ 校外学習に参加できない。
- ・ 行きたい研修に対象外で行けない。
- ・ 勤務時間と生徒の日課にズレがあり、支援をしようと思うと勤務時間を超過してしまう。
- ・ 年休の支給が4月～12月と1月～3月に与えられるがインフルエンザ流行時の1月～3月の年休が足りるかが、毎年不安になる。
- ・ 年休が取れない。
- ・ 行事等で他の仕事をさせられ、支援学級の生徒についていけない。
- ・ 支援員という名前ですので、生徒や保護者に「教員免許はあるの？」「先生ではない人」と思われている。せめて「支援教員」か「支援教師」という肩書きにして欲しい。
- ・ 支援員さんの勤務時間と支援が必要な生徒が在校している時間がずれている。
- ・ 勤務時間が守られていない。
- ・ 業務内容が明確ではない。
- ・ 支援員さんが、担任のようにきめ細やかにサポートして下さるので非常に助かっています。このような方ばかりだと本当にありがたいです。

※支援員の方の勤務時間、給与等について地域差があることが分かりました。また支援員の方が感じられている課題についても掴むことができました。このことについて直接交渉することはできませんが、色々な機会にこの結果を伝えていくことで待遇改善、課題解消につなげていきたいと考えています。

2、特別支援学級、通級指導教室担任としての悩み、問題点、改善すべき点（こうすればもっと良くなる、こうあって欲しい等のお考えもありましたら）を自由にお書きください。

- ・定員8人では十分な個別指導ができない。支援学級の定数を減らしてほしい。（複数）
- ・本当に7人や8人を担任一人でみる学校が複数あり、考えられない状況。町の支援員は通常学級をみることになっており、原則支援学級に固定でつくことができない。支援員の数も増えない。町教委の理解がほしい。
- ・大規模校や支援学級在籍数の多い学校の担任、支援員の数が全く足りない。（複数）
- ・臨採もこない。
- ・加配が担任と同じ仕事ができない（しない）。
- ・4月に顔合わせしていきなり支援に入るのは難しい。安全を第一にしてほしいが調整する時間がなくていけない
- ・以前は支援学級の子どもは支援学級担任が見るものと思われていたが、最近は研修も進み、支援学級児童も交流学級の一員としてみてもらうようになった。
- ・支援学級担任が固定化されている気がする。すべての先生に一度は支援学級担任を経験してほしい。また、支援学級担任も、通常学級（交流学級担任）ができるようになったらよい。（複数）
- ・学級数が増えいろいろな先生が担任になられるが、途中で担任できなくなられる先生もおられ、その分周りの負担が増える。
- ・保護者・教員で意識の差がある。
- ・保護者の要望が大きすぎることもある。
- ・教育課程等の形だけでない管理職のための特別支援教育研修をやってほしい。その学校の特別支援教育の理解、支援学級児童・担任への理解は管理職の理解にかかっている。
- ・修学旅行に行ける人数が決まっており、特学担任がいけないケースがあった。
- ・各校に1つずつ通級指導教室を設置してほしい。そうすると自閉症・情緒学級の在籍数も減ると思う。このまま情緒学級の数が増え続けると、本来の支援ができなくなり、子供も教師も共倒れする。
- ・教員数、支援員数が足りない。（多数）
- ・教室が足りない。
- ・交流学級の担任の受け入れ状況に温度差がある。（複数）
- ・障害種別ごとの指導をするよう強く求められるが、同学年児童をいっしょに指導することも可能にする等、柔軟な対応を認めてほしい。（複数）
- ・学籍は特別支援学級だが、ほとんど通常学級で学習する子どもは、転籍したほうがよいのではないか。特別支援学級の担任として通知表に書くことに困ることもある。（複数）
- ・年度末、年度初めの転入があるので、教員数は4月時点で決めてほしい。
- ・特別支援学級の担任が、毎年入れ替わりが多く、変化が苦手な子ども達にとってはつらい。（複数）
- ・通級指導教室の数が圧倒的に不足している。
- ・近年、保護者の経済的な課題や精神面での課題に打ち当たることが多く、ますます子どもへの対応だけでは済まなくなっているし、困難化していると思う。担任一人では対応できない時代になっていると感じる。
- ・免許がなくても熱意と愛情をもって子どもと対することのできる人こそ、特別支援学級担任になってほしい。担任ができない人を安易に支援学級担任に置くのは、親さんにも子どもにも、とて

も失礼だと思う。

- ・上益城郡内の学校で、特別支援学級担任と通常学級副担任を兼務しているという話を聞いた。週時数フルで入っている状況で、負担が大きすぎると思う。
- ・生徒が中学校に上がってくるまで、医療・福祉等の機関とつながっていないケースがある。(小学校低学年で途切れてしまったり…) 小学校段階、できればその前の段階でつないでもらえると、保護者も生徒も生活の幅が広がると思う。
- ・教職員数が生徒数に対して定められているが、生徒の実態によっては、とても足りる状況にないこともある。弾力的な対応が求められる。
- ・不登校生徒への対応の難しさを感じています。
- ・交流学級との連携の難しさを感じています。
- ・複数学年にまたがったり、発達段階に大きな開きがあったりする子どもたちを、一人で担任して学習を進めることがとても難しい。
- ・特別支援学級の児童・生徒数が急増し、担任や教室がますます必要になっていく今のシステムは限界に来ていると感じる。支援を要する児童・生徒も通常学級で過ごせるにはどうすれば良いかを考えていくべきではないか。通常学級担任がゆとりをもって子どもに対応するためには、1学級あたりの児童・生徒数を減らすことが1番だと思う。
- ・特別支援学級担任が、通常学級担任との関係を上手く作っていくことも大切である。
  
- ・通常学級には電子黒板が設置されているが特別支援学級にはない。設置してほしい。
- ・特別支援学級の定員が8名となっているが、定員に満たなくても学年が4～5学年に渡るので、特別支援学級での指導が一度に何通りも同時進行しなければならないし、交流学級に行かせても上学年やあまり手のかからない児童には支援について行くことが出来ずに交流学級担任にお任せまたはほったらかしにならざるを得ない状況にある。
- ・本校は特別支援学級が5学級あるが、加配が1名のみで全く人手が足りない。
- ・インクルージョンを推進するのであれば、最低でも交流学級の数より多い職員数が必要である。
- ・本校には通級指導教室がなく、グレーゾーンの子どもたちは、かなり無理をして通常学級の指導をすべて受けている状況にある。支援員も全く不足して、通常学級担任もかなり疲弊している。グレーゾーンの子どもの親も通常学級では無理をしていると気づいているが、かといって特別支援学級に籍を移すには抵抗があり、とても悩んでいるケースがいくつもある。通級があれば、もう少し気軽に特別支援教育を受けられるように思う。
- ・特別支援学級では、一人が担任(担当)する生徒の数を減らしてほしい。4人以下だと、もう少し支援できると思う。
- ・知的には普通で学校生活面が難しい生徒が「特別支援学級適」で(中学校に)入学してくるが、本人も保護者も特別支援学級の教室に入りたがらないことが多くなってきた。「特別扱いしてほしくない」ということだ。「現状は難しい→就学指導委員会→特別支援学級適」という流れだが、実際に対応する教員は、保護者、生徒には「通常学級で他の生徒と同じように勉強させてくれ(実際にはそこでトラブルが起こるのだが)」と言われ、管理職・委員会からは「籍が違うのだからあくまでも交流だ」と言われ、板挟みになる。
- ・通級指導教室では、自立活動をメインに指導し、学力補充は学力をつけるためのものではなく、あくまで本人の障害特性からくる困難さを改善させるためのものとき

れているが、実際は学力不振から自信をなくし、学校生活に不安感を持っている生徒には基礎的な学力をつける学習指導が必要だと思う。

- ・通級指導教室を利用するには医師の診断が必要になるが、実際にはそこにつなげるまでのハードルが高く、利用につながらないケースもある。入級のための審査を校内で実施できるなど手続きについて検討してもらいたい。
- ・人手不足。自閉症の子どもで常に多動。教室外に飛び出し等あるので、安全上、常に見守る必要あり。しかし、他に担任している子どもがいるので、そちらの学習の指導がほとんどできない。様々な先生方に関わっていただいているが、皆さん忙しい身なので・・・。定数に関わらず、人員配置を増やしてほしい。
- ・学力不振のときなど、安易に特別支援学級に転級させる傾向にあるのがとても気になる。特に年度途中からもあるので、余計特別支援学級担任は大変である。
- ・外国にルーツのある子どもさんが特別支援学級に勧められることがある。本来なら、日本語指導の必要ありなのにと納得がいかない
- ・通級指導教室の増設を強く望む。小学校入学時、特別支援学級に入級してくるが、通常学級でも十分の力をもっているのと思うことがよくある。保護者も迷われる中、勧められるままに特別支援学級に希望を出されることが多いのではないかと思う。通級などワンクッションおいて、それから決められるような仕組みになってほしい。
- ・特別支援学級在籍児童数が年々増えているのがとても気になります。あまりにも特別支援学級への入級手続きが簡単で、もう少しゆっくり慎重に行うべきではないでしょうか。(年度途中、2学期からの転級など)
- ・親の願い、子どもの気持ちと言うよりは、私たち教師にとってめんどくさい子、大変な子、学力が低い子が特別支援学級へ・・・となっているような気がする。
- ・今年度外国にルーツを持つ子が知的へ(小5)転級してきた。療育手帳B2。日本語の習得も不十分だが、そのことが知的障害にどうつながるのか担任としてよく分かりません。区別がつきにくく、どんな指導をすれば良いか悩んでいます。
- ・学年が3～4学年にまたがるのは普通で、子に応じた指導ができず、子どもたちや保護者に申し訳ないです。
- ・学年が複数に渡るため、プール指導や運動会練習が1日に数時間入ることもあり、自身の健康管理に不安があります。(この先続けられるのか等々)
- ・加配の先生は短時間勤務の方が入っています(自情学級)。曜日によって人が替わる(月火水と木金)ため、対応に微妙なずれが生じ、あまり良い状況とは言えないです。校内で来年度は再考していただこうと思っています。
- ・特別支援学級と交流学級間の連携が難しいところがあります。(児童間・担任間)
- ・必要な教材・教具がありません。予算で買ってもらえない。
- ・学級数が増えてきたので、一つの教室を二つに分けて使っているところであるが、間仕切りとなるものがなく、声が響いてお互い困っている。
- ・人数は少なくとも子どもの実態は色々と違い、支援学級内での対応も多様になり、難しさを感じる。また、複数学年にまたがる場合は、すべての様子を把握することが困難で、交流学級の先生に負担をかけているという気持ちもある。

- ・学習内容がそれぞれ違う児童が4人いるとき、どのように学習を進めれば充実した学習ができるか、あわてて、バタバタしてしまう。1年生2人は鉛筆で書く活動も難しく、ひらがなの読み方が十分理解できていない。体のバランスが取れず、転んだりするときもあり、目が離せない。支援の難しさを感じ
- ・一昨年まで3年間情緒学級を担任していました。指導が難しく、3人一緒での学習は成り立たなくなり、暴言、暴力、飛び出し・・・毎日のようにありました。1対1の対応を提案しましたが、通らず、地獄のような2年半でした。
- ・いろいろな面で支援員さんや教諭の人数が増やせたらいいと思います。
- ・校務分掌など多く持ち、出張や輪番の役があり、多忙を極めているが、通常学級の担任の中には「楽をしている」と偏見を持っている人がいる。
- ・通常学級の担任と打ち合わせする時間的余裕がない。
- ・支援学級が2クラスあり、それぞれ4人ずつの児童がいて、担当している児童が各交流学級に行くときについていけない。
- ・特別支援学級のための支援員の配置があれば交流学級について行くこともできるようになる。
- ・支援学級の子どもたちは「学校の宝」として全体で支えて欲しい。
- ・「発達障がい」や「支援学級」や「障がい」について偏見をなくすための取り組みを継続して行って欲しい
- ・特別支援学級の担任は学年での役割で、副担任と同じような学年の事務的作業を任されることがある。支援学級独自の行事の運営や計画、進路指導など、別の動きをしていることが、他の職員から見えにくいことがある。
- ・小学校や高校との連携も密にしなくてはならないので、通常クラスにはない苦労もある。特別支援学級担任から発信していくことが必要だとは思いますが、他の職員のサポートが無ければ発信もできない。
- ・特別支援学級に在籍する児童は3人と少ないが、通常学級の方にも支援を要する児童も多く、通級指導教室の設置を学校として求めているが、実現していない。
- ・上記の状況から教科によって、担任している児童が交流学級に入るとき、一緒について行くが、交流学級の支援を要する児童に関わることが多く、担任している児童に関われないことがある。
- ・支援学級の教育課程について、話を伺う機会を充実して欲しい。
- ・支援学級の定数が多いので、もう少し、少なくなるよう、改善して欲しい。
- ・子ども1人1人のアセスメントをとるための教材について研修を行って欲しい。
- ・日によっても、年によっても学年によっても1人1人によって悩みや課題が変わってきます。それぞれの生徒のニーズを把握し、指導法のバリエーションを増やすための研修が必要だと思います。
- ・周囲の理解や教師側の研修は、間違いなく進んでいると思います。研修によってあらゆる場面や事態を想定できるような教員になれるように努力が必要だと感じています。
- ・担任と支援員間で指導や支援についての打ち合わせをする時間が欲しい。
- ・担任と支援員間で連携ができていますのでとても支援しやすい。
- ・支援員さんの人的配置は改善したが、支援を必要とする生徒が通常学級内に多い。小学校時のように、通級指導教室の設置が望まれる。
- ・支援学級の学級数は少ないので悩みを相談しにくい。



(1学級の時はほぼ相談できなかつた。)

- ・支援学級より通常学級の方が優先されるべきだと思っている先生がいらっしゃる。(他の教師への啓発をどうすればいいか、啓発できていない私の問題でもあります)
- ・ある子どもの登校が7:35頃、それから朝の片付け等の教育活動が始まります。本校の勤務時間は8:15なので40分早い。この朝の活動は大変その子にとって大切なことなので、管理職にこの40分を任せることはできない。夏休み中に話し合っただけ勤務時間の方向性を見出したい。
- ・最近の特別支援学級は他学年にまたがり、また7名~8名と大人数を担当が担当しなければならない。その担当が一人で問題を抱えて困らないような特支職員のバランス(男女や適性など)がとれた配置をお願いしたいです。また、最近の特支の生徒は1人1人の課題も多く、SSWやSCに介入して貰わなければならない場合もある。その場合は各機関との連携を伴う配慮も担当が抱えることになる。
- ・専門性が低いのもっと研修に参加する時間を確保して欲しい。
- ・特支担当を希望していない先生が特支担任になっているケースがある。いずれ教科に戻るからと言われる方もいる。教科指導と同じ気持ちで特別支援も勉強して欲しい。希望していないのに特支にやらされたという感がある。
- ・私は特支の担任や学年部との連絡調整・指導はできるが、意見のやりとりを含めて難しいと聞くことがある。
- ・適応指導教室に来る生徒にもっと関わって欲しいと言われている。
- ・特支の教室がばらばらでちょうどいい場所に教室が欲しい。
- ・学習意欲がない生徒に学習させることができない。
- ・不登校気味の生徒が行事等に参加できない。
- ・生徒のネットゲーム依存の問題。
- ・学習に対して「嫌です」の生徒の学習拒否反応の問題。
- ・交流学級への入室、全校集会等への参加及び活動への生徒の拒否反応の問題。
- ・支援学級の生徒を別扱いする雰囲気はないが、特支の担任が受け持っている生徒だけに時間を費やしていると、学年、交流学級の情報等が特別支援学級に届かないことがある。
- ・特別支援学級にエアコンが入っていない。
- ・自閉症・情緒障がい学級の担任です。現在5人(1年男【知的】2人、2年女【情緒】1人、3年男【知的】1人【情緒】1人)在籍しています。このうち、知的の3人は本学級を希望していません。入学する際、知的学級の新設を申請されましたが認められませんでした。担任1人でそれぞれ特性のある5人の子どもたちの学習指導はとてもできません。支援学級新設の要望は是非聞き入れてもらいたいです。

※お寄せ頂いた意見を全て載せております。「特別支援教育」についての考え方、「インクルーシブ教育」や「合理的配慮」についての認識について、整理・確認することも必要性の感じております。

この白書の結果をもとに、情報を発信したり、交渉の中で役立てたりしていきたいと考えております。お忙しい中、たくさんのご意見を寄せて頂き本当にありがとうございました。